

俳句を中心とした伝統的な言語文化の教科横断的・文化横断的な授業実践開発に関する研究 —主体的な言語文化の担い手となる児童・生徒の育成を目指して—

高松 美紀（東京都立国際高等学校 指導教諭）

1. 問題意識と研究目的

本研究の目的は、俳句を軸に、児童・生徒が「伝統的な言語文化」を主体的に発展させ、発信するスキルを育てるための新たな授業を開発することである。「伝統的な言語文化」の指導は学習指導要領でも重視されてきたが、受け身的に「親しむ」ことにとどまる傾向がある。一方で、グローバル化や情報化、IT化への対応は急務であり、現代における主体的な「伝統的な言語文化の担い手」を育成するような学習の可能性の検討が必要であると考えた。

本研究の特徴として、「写真俳句」への着目と、国際バカロレア（International Baccalaureate、以下IB）の評価方法の応用がある。まず、写真俳句では「瞬間を切り取る」ことにおいて写真と俳句を融合させ、視覚芸術と言語芸術の相互作用による生徒の表現対象に対する意識化・焦点化を期待した。またIBでは、教科間連携を重視し、創作活動を積極的に取り入れかつ評価しているため、実践化の参考になると考えた。

2. 研究方法

本研究では、俳句を軸に3つの実践研究の柱を立て、効果と課題を検討した。第一に、国語と美術との教科間連携による写真俳句の実践である。第二に、海外の生徒との俳句交流である。第三に、日本語教育における俳句導入である。

写真俳句と国際交流は高校生有志が課外で取り組み、美術科教員が写真の技術指導にあたった。生徒は段階的な写真俳句の創作と相互批評、言語化を繰り返し、視覚芸術と言語芸術の相互作用と可能性について探究した。また、国際高校では、クロアチアの二校と写真俳句の交換を中心に交流を試みた。こうした高校での実践の知見を元に中学で実践を行い、具体的な指導案と評価案を作成した。また、小・中学、高校のIBの日本語の授業において、俳句を用いて語彙の習得や日本的な情感の理解を促す実践を行った。評価にジャーナルを導入し、その有効性を検討した。

3. 成果と課題

第一に、写真俳句の言語文化教育としての有効性と可能性である。これまで写真を題材に俳句を詠む実践は行われてきたが、本実践では「瞬間を切り取る」意識の共通性と、視覚芸術と言語芸術の融合性に着目した。当初生徒の中には、詠む対象を明確にしないまま5. 7. 5に言葉を当てはめる傾向がある者もいたが、感動の対象を焦点化し、その要素と関係について意識する様子が見られた。これは何をどのように撮るのか意識し、写真を見ながら俳句の推敲を繰り返すことで感動の対象に向き合い、再構築したためと考える。また、写真と俳句が相互に補完し合い、融合する新しい言語芸術のあり方を生徒自身が見いだしたことである。相互批評の過程で、写真の構図や色彩などの視覚的要素と俳句の言語芸術の要素が補完し合い、共鳴し合うことが生徒自身の言葉で指摘され、確認されていた。また、クロアチアの生徒と作品とコメントを交換し、既製のイメージにとらわれない表現からの刺激や、異文化を超えた視点に共感を得た。このように、生徒自ら作品の魅力を検討し、視点や要素の関係性を発見すること、さらに相互批評、すなわち主体的な判断とコミュニケーションによって共に成長していくあり方は、主体的に伝統的な言語文化を新しく発展させていくスキルとして有効であると考えられる。

第二に、写真俳句を含めた創作活動の評価方法である。これまで俳句など創作物の評価は難しいとされてきた。また、写真俳句においては、視覚芸術と俳句が融合し、共鳴し合うところに価値があるため、写真と俳句の巧拙を個別に評価するのではなく、その補完や共鳴がどのようになされているのかを評価する必要がある。そして重要であるのは、どのように生徒が創作過程で思考し、言葉を吟味して成長したかである。こうした点において、学習の過程や振り返りを重視し、ルーブリックを用いて評価を行うIBの指導や評価法は参考になる。IBの日本語の授業で行った実践では、完成された作品だけでなく、言葉の取捨選択・添削が頻繁に行われる創作過程を可視化することが、学びと評価の仕方に有効であることが実証された。以上のように、生徒の創作の意図と発展させていく過程を言語化すること、ルーブリック評価を組み合わせることで、写真俳句を含めた創作活動の評価がある程度可能になり、それが新たな言語文化の創造にも有効に働くと考えられる。

今後の研究課題は、俳句の「瞬間を切り取る」以外の多様な側面を検討し、発達段階に応じた評価の方法を検討すること、視覚芸術と言語芸術の関係を文化史的に研究し授業化すること、グローバル化と伝統的な言語文化のあり方に多面的にアプローチするような授業を開発することである。

共同研究者：永吉 聖（東京都立葛飾総合高等学校） 写真俳句指導 研究協力者：塚田尚三（世田谷区立世田谷中学校）

日本語指導 研究協力者：木村有伸（同志社国際学院）、森桂子（東京都立国際高等学校）*所属は実践時